

四国遍路 50 日間の移動と対話の映像民族誌

慶應義塾大学大学院・日本学術振興会特別研究員 DC 後藤一樹

報告者は、2016年8月5日から9月21日までの48日間（高野山までを含むと52日間）をかけて、四国八十八ヶ所の寺院を歩きながら巡拝し、およそ1200kmの移動経験を包括的に撮影した。合計420時間の記録映像には、撮影許諾を得ておこなった80名ほどのインタビュー映像が含まれている。それらを「遍路の移動と地域住民との対話」のテーマから編集したのが、本セミナーで上映する映像民族誌的作品である。

作品の中で四国の地域住民が語るように、遍路（巡礼者）はかつて、浮浪者といった意味の蔑称である「辺土」と呼ばれていた。病気（ハンセン病など）や貧困によって、ホーム社会から「縁切り」（網野善彦『無縁・公界・楽——日本中世の自由と平和』平凡社）した者たちが、死に場所を求めて歩いたのが四国の遍路道だったのである。

そのような伝統は今もなお、形を変えて生き続けている。私が今回の撮影調査で最初に出会ったのは、就職活動をせずアルバイトをしながら暮らすうちに、同居する家族からの視線に耐えきれなくなり四国遍路にやってきた青年であった。つまり、ホーム社会からの「移動」には、「せざるをえない」という強制的でネガティブな動機づけが含まれている。しかし他方で青年遍路は、「移動」への強い意志を自己の生まれ変わりの期待とともに抱いている。そして彼は、徳島の遍路宿のご主人や女将さん、私のような他の遍路との対話、歩きながらの自己内対話を重ねる中で、彼の人生に対する態度を少しずつ変えていく。彼の発言や表情の変化は、映像から（映像だからこそ）読みとれるだろう。彼は、「四国に移住するとしたら、もう東京には戻れないだろうけれど、その覚悟はある」と語るにいたる。

このように、ホーム社会から一時的に縁を切り、四国の地で見知らぬ他者と縁を紡いでいく移動過程を、私は「『縁切り』と『縁の再構築』プロセス」と呼ぶ。そうした移動経験の内実を、映像によってとらえたのが本作品である。

ところで、遍路の他者との縁の結び方は、二種類ある。一つは(A)「遍路—地域住民」の関係であり、もう一つは(B)「遍路—遍路」の関係である。これらの関係の動態を、私は映像における「ヨコの動線」と名づけている。私のカメラはまず第一に、この「ヨコの動線」を記録している。

本作品中の(A)の事例としては、「証券会社を退職し『生きる力』を求めて東京から移住してきた女性遍路」と「彼女を迎え入れた高知の遍路宿の三代目主人」、「若い頃の放浪の末、今もフィンランドに暮らす男性遍路」と「息子を亡くし、母親のように遍路に接する愛媛の善根宿の女将さん」がある。(B)の事例としては、「フィンランドの男性遍路」と「托鉢をしながら20年間遍路道を歩き続ける男性（パントマイムさん）」があげられる。

次に、「ヨコの動線」の対概念として、「タテの動線」があることを指摘したい。「タテの動線」は、カメラが撮影している被写体としてのアクターたちの行動や会話に、撮影者の私に関わっていく動きの線である。私もまた移動を続ける遍路であり、被写体との相互行為の過程で、自己の身体性や思考を変容させている。私は、結願寺である八十八番寺が近づくにつれ、「なぜ歩かなければならないのか？」と問うようになり、「漂泊と定住の交差が生み出す動的な『関係イメージ』の中に、私自身を発見するため」と作品内で答えている。

「関係イメージ」とは、映像の記号論を開拓したジル・ドゥルーズの用語であり、「知的心情や象徴的行為つまり関係を、対象としているイメージのこと」（『シネマ1——運動イメージ』法政大学出版局、344頁）である。ドゥルーズによれば、フレーム内の登場人物たちの行動・知覚・感情を規定する諸関係を証言するのは、カメラと登場人物たちとの運動関係である（同書349頁）。このときカメラは、ただ被写体をまなざすだけの「動く目」とであるといえる。

ドゥルーズが見落としていたのは、次のような映像生成の法則である。特にドキュメンタリー映像においては、撮影をする行為主体の「声」や「身体」がフレームの内側で運動することがある。撮影者が再帰的にイメージ化される時、登場人物たちの諸関係は撮影者との関係を取り込むようになり、物語の展開がダイナミックに変化していくのだ。

このようにして、被写体間（「ヨコの動線」）あるいは被写体と撮影者間（「タテの動線」）において「相互交渉する複数の声と像」が、映像を通して現象するのが発見されていく。

「歩きながら被写体と対話をする」報告者の撮影方法は、「歩きながら聞く」柳田國男以来の民俗学の伝統とも地続きであり、四国四県を撮影対象に地域社会の動的な構造を詳らかにするという意味で、文化人類学や地域社会学にも寄与するものと考えられる。